昭和16年10月の 淺間山火山活動報告

松井林平*

1. 緒言

淺間山は本年 1〜2 月に記錄的異常噴火を繰返し，その後活動が衰へ氣味であつたが，9 月頃から再び稍ゝ活氣を呈し，10 月には無音爆發日が 22 日・全回數が 43 回に及んだ．何れも規模は小さく，この爆發に伴ふ災害は殆ど認められぬ程度であつた．以下その概要を報告し，將來の參考の資に供したい．

2. 月別・特別爆發回數

本年 20 月までの爆發回數を列擧すれば，第 1 表の通りである．10 月は爆發回數こそ 1〜2 月に及ばぬが，日數に於ては第 1 位であつて，1 月の 19 日より 3 日多かつた．

第 1 表 淺間山爆發回數

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
日數	19	16	7	11	9	3	6	5	13	22	111
回數	106	127	16	13	17	7	6	9	16	43	360

次に 10 月の爆發を時刻別に分類すれば第 2 表となり，15 時の 6 回を筆頭に，10 時・14 時の 5 回がこれに次ぎ，11 時・17 時の各 4 回の順となる．晝間爆發が全くなかつたのは 7 時だけである．21 時以後 4 時までに爆發があつたことと得はれるが，何分無音爆發のため不測に終つた．

第 2 表 淺間山時刻別爆發回數

時刻	1 時	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
回數	0	0	0	0	1	2	0	2	2	5	4	2	2
時刻	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	計	他に1回不詳あり
回數	5	6	3	4	2	0	2	0	0	0	0	42	

3. 爆發當時の天氣と氣壓變化

爆發當時の天氣は快晴が 27 回で最も多く，晴が 7 回・曇天が 5 回・次に薄曇が 3 回の順であつた．氣壓變化は上昇 20 回 48 %・下降 13 回 31 %・平常態 9 回 21 % とたり，今回の爆發も氣

* 輕井澤觀測所

壓上昇の際起つたものが最も多かつた.

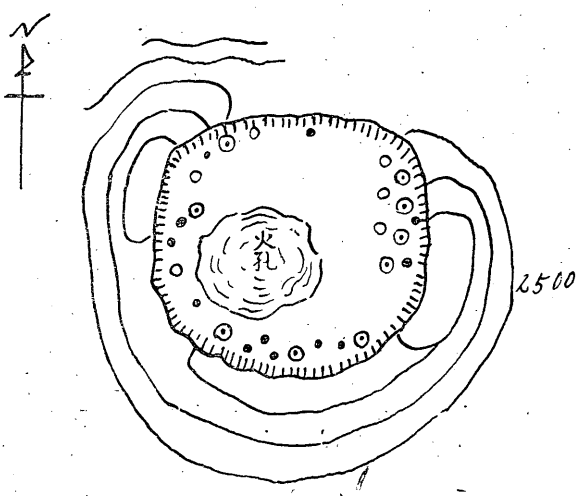
4. 噴煙・降灰砂

今回の活動中，輕井澤觀測所に降灰があつたのは夜中 1 回・晝間 1 回の 2 回たけであつて，その量も微量であり，噴煙通過路下の東寄りに特に多かつた（寫眞 1 及び 2 參照）. 爆發力が弱かつたため，降灰砂はあまり遠方までは達せず，大部分山嶽部で終つた（寫眞 3 參照）. 噴煙は南西寄りに流出した日が 2 回，天頂で擴大消失したものが 3 回で，その他は皆東寄りに流出した. 10 月 28 日登山調査の結果，降灰砂が最も多量と認められる場所は六里ケ原で，一面灰白色に硬化し，正確なる量は判りにくく，乾燥した日，風が强まる毎に物凄く飛び，濃霧の襲來に似た狀態になつた，火口緣では北東寄りに黑味ある火山灰砂が多く堆積し，「ケシ粒」ほどの小砂を澤山含んでゐた. 南西には赤味多い火山灰が火山砂礫の中に「コンクリート」を流したやうに固く沈澱し，50 米下方まで續いてゐたが，それ以下ではなかつた.

5. 火口內狀況

火口は深さが約 170 米あり，火口底の中央からやや南西寄りに現在活動中の直徑が約 50～60 米大の下方に少し凹んだ火孔がある（第 1 圖參照）. この火孔は幾分南西へ傾斜してゐるやうにみえ，全部火山灰砂で埋まつてややうす黑く，所々に小石が見えた. 特に火口內壁際は一段高く火山灰砂がたまつてゐた.

第 1 圖 淺間山火口見取圖. 昭和 16 年 10 月 28 日現在



噴氣は 27 個所あつた. これらのうち，火口內壁下部に 5 ケ所，東側火口緣に 6 ケ所，南側火口緣に 2 ケ所あり，噴氣量が最も多かつたのは南西側火口內壁下の現在活動中の火口附近のものであつた.

火口內は總體にうす黑く，極く靜かで微弱た噴氣音が聞えるだけであつた.

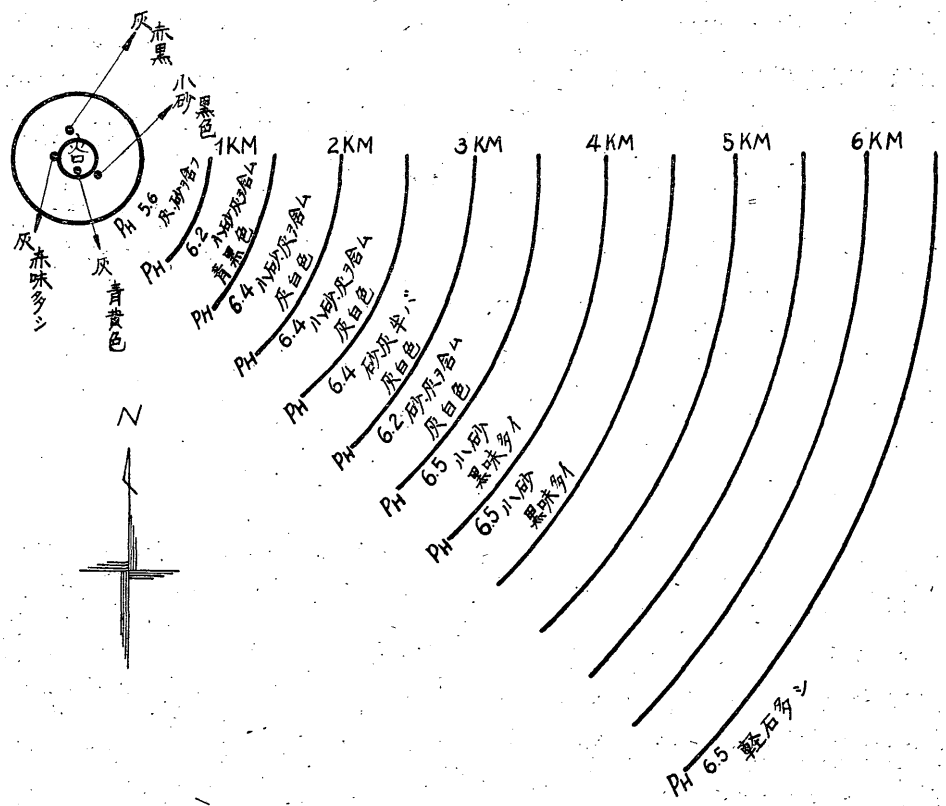
6. 火山灰砂の PH 測定

10 月 28 日に，今回噴出した火山灰砂を採取し，その PH を測定した. 次にその採取場所と結果とを示す. 蒸溜水 50 cc. 中に試料火山灰砂 1g を加へ，30 分間振盪し，浸出水の PH を測定したところ全部酸性であつた. 殊に火口周圍の試料は PH が非常に小さく，持合せの試藥では測定が不可能であつた.

7. 水温の變化

湯川の水温變化はあまり判明しないが，濁川源泉（海拔 1500 米附近）の水温は一年を通じて殆ど變化がなかつた．ところが最近温度がごく僅か昇つた様子が認められた．詳細は今後なほ觀測を續行しての上で述べたい．特に注目すべきことは「血の池」の上にある「あはぐろ池」の水色の變化である（寫眞 4 參照）．6 月 9 日觀測以後，觀測が中斷して材料がなく遺憾であるが，赤褐

第 2 圖 淺間山火山灰砂採取場所と PH 分布



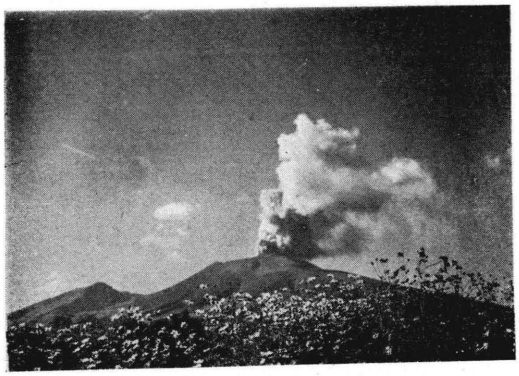
色の水を湛へてゐた池が 10 月 9 日の觀測には水が全く紺色に變化して名實ともに「おはぐろ池」と變つた．この事實は今年の異常噴火と關係がありさうにも思はれる．

8. 結 び

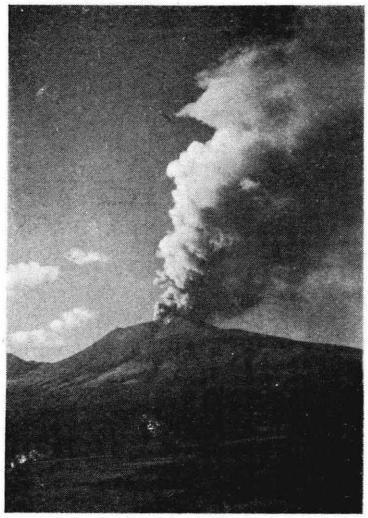
今回の淺間山の火山活動の觀測結果は大體次の通りである．

1. 爆發はいづれも小規模であつた．
1. 降灰砂はあつたが，噴石はなかつた．
1. 爆發は高氣壓範圍内で天氣がよく氣壓昇高の際起つた．

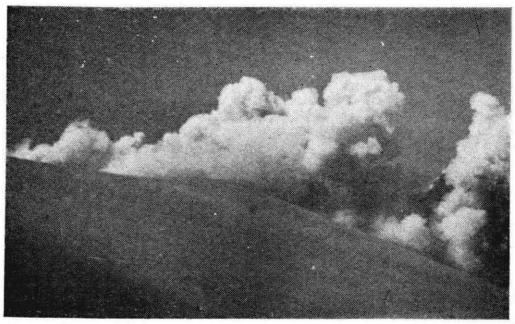
昭和16年10月の 浅間山火山活動報告



(1)　10日16日14時48分の爆發
これは本活動中の最大のものである
(昭和16年10月16日14時50分撮影)



(2)　1の噴煙
山の中腹以上降灰砂
(昭和16年10月16日14時53分撮影)



(3)　10月28日11時09分の爆發
(昭和16年10月28日11時10分
東前掛山斜面にて撮影)

(4)　おはぐろ池
(昭和16年2月22日撮影)

松井林平報告　附圖

1. 現在程度の爆發は今後なほ續く見込み.

最後に不斷の御指導を賜はる藤原臺長閣下並びに地震課火山掛本多彪氏に謹んで御禮申上げる.
なほ觀測に製圖に助力をお願ひした小林安太君に厚く御禮申上げる.

(昭和 16 年 11 月 20 日記)